

20114

下肢 MRA にて stent 内腔が評価可能であった症例

PPI にて stent 留置後の MRA では stent 内の評価は困難であるというのが通説であった。今回 Terumo 社製 MISAGO 留置後 MRA を行い stent 内評価が可能であった症例を経験したので報告する。症例は、2013/6 月から 2015/1 月までに PPI を施行時に MISAGO を留置後に下肢 MRA を施行した 14 人。16 病変に対して 19 本の stent を留置。撮像装置は東芝社製 Taitan1.5T を使用。Fresh Blood Imaging(以下 FBI)法にて撮像。Stent 内径 6.0mm から 8.0mm、長さ 40mm から 150mm を使用。画像評価は MIP にて視覚的評価を行った。評価に当たって MIP 画像は過大評価、過小評価されてしまうので、評価に対しては細心の注意を必要とし、PPI 施行にあたり ABI をもう1つの評価項目として追加した。本来 stent の金属による artifact によって、血液の信号がかき消されてしまい描出が困難になる事が考えられたが、MISAGO を留置した個所では血液の信号の低下が軽度であった。その為、評価困難であった血流情報が取得でき、MIP 画像において stent 留置個所が困難な程しっかりとした血流情報が取得できていた。また、stent 内再狭窄の評価も 2 症例であるが経験できた。Stent 留置後の評価に MRA が有用であった症例を経験したので報告する。